全国米・食味分析鑑定コンクール「特別優秀賞」受賞

源流米が七ヶ宿町にもたらしたもの

平成21年11月28、29日、福島県天栄村において第11回「米・食味分析鑑定コンクール」が開催されました。出展数は2，888点に及び日本国内にとどまらず、中国、台湾、アメリカからの参加もありました。

七ヶ宿町からは七ヶ宿町源流米ネットワークのメンバーが出品しました。審査の結果環境王国部門で秋山良彦さん（湯原）用途別部門で高橋美幸さん（湯原）がそれぞれ特別優秀賞を受賞しました。昨年の梅津賢一さんの金賞受賞に続く快挙となりました。

▲特別賞受賞、秋山さん・高橋さん

高橋さん「ダムの上流で耕作している責任を感じています。自然を大事にしながら米作りを続けたいと思います。」

秋山さん「八二歳になる父の管理技術もあり、親子での受賞と思っています。」

▲全国米・食味分析鑑定コンクールの審査状況

▲前年の梅津さんの金賞受賞を記念して旬の市へ看板設置

源流米・特別源流米

七ヶ宿源流米ネットワークは自分たちで七ヶ宿町源流米の基準を設け作付けしています。基準は以下のとおりです。

①「みやぎの認証米（今までの栽培よりも農薬、化学肥料の使用料を半分以下にし、宮城県が認定している米）と同等以上の栽培方法

②「かき殻」を10ａあたり100kgを施用

③用水路には「炭」を置き、水の浄化を図る

さらに水田環境鑑定の審査を受けた水田は「特別源流米」と位置づけています。

今回の受賞は環境に配慮しながらの米作りが食味分析等に反映し評価されたものと思われます。

源流米ネットワークの取り組みにより、源流米を食べる事が環境保全へとつながっていく事も今後魅力の一つとなる事でしょう。

▲農業用水浄化のため炭設置

源流米ネットワーク

七ヶ宿源流米ネットワークは、平成20年7月に設立し、水稲の新品種「やまのしずく」の試験栽培をきっかけに6名の農家で設立し、現在は9名で活動を展開しております。

活動の初年度は、湯原の作付け水田で水田環境調査を受け最高ランクの「水田環境特A」に認定されました。これは全国でも数少なく宮城県では、丸森町の棚田と七ヶ宿町の柳沢水田のみの二箇所だけです。「安全・安心・美味しい」米づくりを展開する中で、最も重要な環境が認められたことは生産者にとって、大きな自信となりました。

今年の活動として、「農業環境」「地域環境」「社会環境」をテーマに都市住民との交流を深めながら、七ヶ宿町の農業の現状を知ってもらうことと、水源の町としての活動体験をとおして、源流米及び七ヶ宿町の農産物が「安全・安心・美味しい」をPRしながら、流通販売が強化されることを期待します。

やまのしずく

やまのしずくは平成17、18が行われ平成19年に宮城県の奨励新種となりました。

町では七ヶ宿町で育ったやまのしずくを基幹品種と位置づけており、作付け面積も平成20年度の2ｈａから平成21年度は約30ｈａと15倍の作付けとなりました。

あっさりとした食味で、毎日食べても飽きない事が魅力です。21年度に収穫した米は、ほぼ完売しました。

農業体験

「学習田農業体験」を通して、湯原小学校児童が発表した「やまのしずく大作戦」は多くの町民に勇気と感動を与えてくれました。この発表会で提案された、源流米のキャラクター「やまのくん・しずくちゃん」は昨年シールとなり、源流米販売に使用されております。

湯原小学校では以前から米作りを学習の一環として行ってきましたが、やまのしずくがその意義を深め、地域、環境、住民との結びつきを一段と強いものにしました。

▲やまのくん・しずくちゃんシール

交流

昨年からはサッポロビール㈱仙台工場のみなさんとの交流活動が展開されました。種まきから収穫までの一連の作業を企業の皆さんと、源流米ネットワークのメンバーが協力しながら行いました。

七ヶ宿源流米は、サッポロビール㈱仙台工場の企画により、営業活動の場でも利用されました。

町外の企業との活動は七ヶ宿ダムの水を原点に米・農地・環境が結びつき七ヶ宿町が活動の場となりました。

ビールをつくるための水の重要性、その水質のためには第2のダムといわれ大量の水を貯水する水田つまり「農地を守る」ことが大切であることを考える活動となりました。

▲松島で源流米販売

▲サッポロビール(株)仙台工場のみなさんが来町して田植えを行いました